

●2026年度京都府交響プロジェクトの活動報告書の提出を4月9日(木)にいたしました。

京都府の交付金額92万円に対して、里山の会活動報告書の交付金額額は73万となりました。申請時の計画に対して出来る限り工夫を凝らした努力の結果です。これから京都府では交付基準に合致するかを審査して交付金額が通知されてくることになります。

●春の野草を食する会 4月18日(土)

里山の会の活動の定番イベントの「春の野草を食する会」は毎年50人余のご参加があり、唯一おなが満足させられる楽しい取組です。鶯のさえずりが上手になって谷に響き渡り始めます。レンゲやタンポポが足元で春を告げています。葉桜が目立ち始め、雑木の緑が色を添え里山に勢いが出てきます。田圃では稲作の段取りが始まり、間もなく茶摘みの頃を迎えます。春になったばかりなのに25度の気温を予想する驚きが伝えられ始めました。今年も暑い夏がすぐ来るような気がします。短い春をしっかりと楽しめる瞬間としてご参加ください。14日の事務局会議で昨年はごはんが底をついたのでお握りの持参をお願いしようかといった意見が上がりましたが、しかし今年はスタッフが各家庭の最大4合炊きの炊飯器で炊き上げて持ち寄ろうではないかとの結論に落ち着

き、初めて準備する取組になりました。(出席者は5名)これではまだ不足するので協力者を募ることにしています。前日の準備としてお椀作りを17日(金)14:00から始めます。お箸とお椀を50人分作り上げ、竹の用意を森島さんが切りだしていただきました。燃料は今年生産したコナラの炭を使うつもりです。時間に余裕ある方で工作をしてみようと思われるお方のご参加を大歓迎しています。一足お運び頂きご参加ください。お待ちしております。当日は少雨決行でと考えています。

参加者募集

春の野草を食する会

4月18日(土) 10:00~12:40

里山の会一番の楽しいひと時で、スタッフの多くは常に参加者へのサービスに心を砕かねばなりません。しかし今回は唯一自らが主人公となって手作りの料理を食べられることになります。もちろん初参加者と同じ席で天ぷらなどに舌つつみを打ち、わずかな時間を過ごします。里山の会に参加してよかったと実感できるイベントです。里山の会で一番楽しいイベントで皆さんが主人公で、力を合わせて野草を摘み解説を聞き、洗って和え物や天ぷらにして手料理としていただきます。20種類以上の食物が集められます。春を迎えた植物の元気と新鮮さとひととき違った味わいを楽しみましょう。毎年定員がすぐに一杯になります。

これまで採取できた植物

ウシハコベ セリ カラシナ カラスノエンドウ スイバ タンポポ ノイバラ  
ヒメジョオン タネツケバナ ヨモギ ミツバ タラの芽 ユキノシタ ワラビ  
ノビル コイモ サツマイ シイタケ等

参加費 一般500円(小学生以下は無料)、会員400円  
 集合場所 里山農園 京田辺市水取菰谷 普賢寺小学校南800m  
 募集人数 50人  
 参加申し込み 里山の会 メール=fddb257@yahoo.co.jp  
 記載項目 氏名 年齢 電話 住所  
 持ち物 帽子 上着(長袖) スポン しっかりした靴 飲み物 タオル



主催 NPO やましろ里山の会  
 事務所 京田辺市田辺深田15  
 メール fddb257@yahoo.co.jp  
 電話 0774-64-4183

●第 32 回通常総会を 4 月 29 日（水）13:00 京田辺市中央公民館で開催いたします。

里山の会の結成発足が 1996 年です。30 年が経過いたしました。意義のある通常総会です。社員の皆様 35 名のお顔が揃う総会としたいものです。ご多忙の折ゴールデンウィークの始まりですが、万障繰り合わせご出席をお願いいたします。

あっという間に 30 年が経過しました。この間には多くの皆様のご協力でここまで歩んできました。何よりも会員減少の中で国交省淀川河川事務所からの木津川希少種生調査管理業務の受注は困難を伴う作業でしたが財政的には大変な効果をもたらしてきました。また京都府の交響プロジェクト交付金は各イベントの充実に欠かせない制度でした。これらの制度は里山の会の活動には欠く事が出来ない制度でした。しかし交響プロジェクト交付金制度の 2026 年度は予算化されず、厳しい運営となります。また国交省の受注作業は傾斜場での作業で体力面から継続実施は無理ではないかとの声が大きくなり、これも厳しい局面に差し掛かっています。これから事務所維持経費などの確保は困難との判断が順当です。加えて会員の減少も加わってきます。

困難な中で芽生えた若手の活動も軌道に乗り始め、勇気と元気を与えてくれるようになり明るい雰囲気が出てきましたが、どうにもならないのが奮闘を続けてきている体力と年齢からくる衰えからして、この辺りが幕引きの潮時ではないかと考えられます。幸い 30 周年記念をきっかけにして 2026 年度は例年通りのイベントを開催しながら、うまくゆけば活動も継続出来ることを願いつつ余裕ある取り組みとなるようにしようではありませんか。

●今、里山の会は 4 つの課題と後継者問題に直面しています。

総会で各位からのご意見提案をいただきたいです。

①里山農園について、②木津川希少種生管理業務について、③会計担当係の選定、④会運営と事務処理について、であります。これまで何とかしながら頑張ってきた努力を尽くしてきましたが、予期せぬコロナの発生で社会の仕組みが大きく変わり屋外での活動に大きな難しさ、その後体温に近い高温の夏のため屋外での行動を控えることが強調されました。追い打ちをかけるように物価高の連続で動きが静かであった活性化が失われてきた外的要因と、年齢から無理がきかなくなる内的要因が考えられます。

各理事はやる気は旺盛でも寄る年波からくる不安と健康からの心配で安全な範囲で納めておこうと消極的になりがちです。高齢者ドライバーとなって活動のたびに同乗者を乗せて走り回るので安全を心配する家族から厳しい注意の声がある中でも毎週定期の事務局会議に出席されています。そして 80 才のハンディを超えて気力を燃やして（自らの健康維持のためもあって）お世話活動役を続けられています。以上現状と課題をお知らせいたしました。

●このたび、会誌『里山の自然』第 60 号の製本と発送作業を行います。

毎号、皆さまの手で丁寧に仕上げられる会誌は、会の活動を伝える大切な架け橋です。短時間でも構いませんので、ご都合のつく方はぜひご参加ください。作業後には、ささやかな交流の時間も予定しています。ご参加いただける方は、事前にご一報いただくと助かります。どうぞよろしくお願いいたします。

4 月 30 日（木）13:00～16:30

里山の会事務所 京都府京田辺市田辺深田 15（府道 八幡木津線 ENEOS 北隣）

メール fddb257@yahoo.co.jp

電話 0774-64-4183